

## 1 すみだ環境ふれあい館



墨田区文花1-32-9 <http://fr-kan.org/>  
10:00～17:00(月、水、12/29～1/3は休館) 無料

2001年(平成13)、墨田区環境学習の拠点として、小学校の廃校を利用して開館いたしました。NPO法人雨水市民の会が墨田区から管理委託を受けて運営しています。「雨水資料館」「環境工作室」「交流スペース」「時間の部屋・起源の部屋・循環の部屋」から構成され、ほとんどが廃材・リサイクル品を利用して空間が構成されたユニークな施設となっています。また、様々な雨水タンクの展示や雨水資料室、雨の絵本広場等の見学ができます。当該施設のトイレは、雨水利用をしています。

## 2 押上駐輪場



墨田区押上1-8-25  
屋上開閉時間 9:00～20:00

スカイツリーのそばにある自転車駐輪場。雨水利用の施設で、地下に230トンの雨水タンクがあります。ウッドデッキに降った雨を溜め、トイレの洗浄水や屋上緑化の植栽の灌水に利用しているのですが、ヒートアイランドを抑制する装置としての役割ももっています。多孔質の砕石を用いているのは、石の隙間(空隙)に水を溜め徐々に蒸発させることで雨水の流出と気温の上昇を抑制するため。緑化部分も蒸散作用などによって気温上昇を抑えます。環境に配慮した雨水循環屋根システムです。

## 3 飛木稲荷神社



墨田区押上2-39-6

ある時、暴風雨の際にイチョウの枝が飛んできてこの地に刺さり、いつの間にか亭々とそびえたので、時の人が瑞兆であるとして稲荷神社を祀ったとも言われます。別の言い伝えによると鎌倉幕府の滅亡後、北条氏の一門が逃れてこの地に転住し、稲荷大明神を奉祀したのに始まるとされています。また、飛木稲荷の大イチョウは樹齢500～600年で、区内では江戸時代から残るイチョウは4本しかなく、中でも最古の木と言われています。戦災では一部を焼失し樹勢が衰えた時期もありましたが、現在では復活してきました。

## 4 高木神社



墨田区押上2-37-9

社伝によると、1468年(応仁2)創建と伝えられています。祭神は高皇産靈神【たかむすびのかみ】で、古くは第六天社と呼ばれていましたが、明治初期に高木神社と改称したといえます。乱石積みの上に安置されている「弘化二年」銘狛犬は左右同形で阿・吽の区別がありません。左側の狛犬の銘文から、外神田平永町代地の白鼠屋藤七等が奉獻したことがわかります。

## 5 路地尊2号基



墨田区向島5-39-4

家屋や駐車場の屋根から雨水を地下タンクに集めて、手押しポンプで水を汲み上げる路地尊。ここは1988年(昭和63)に設置されたもので、隣の屋根から集めた水を地下の雨水タンク(3トン)に溜めています。管理は墨田区ですが、清掃など日ごろの手入れは住民が行なっています。向島地区は戦災で焼けなかったので、昔ながらの近所付き合いが残っていて、みんなで路地尊を使いながら路地を守っています。住民と行政が一体となってまちづくりに取り組んでいる実例です。

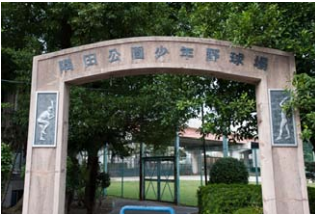
## 6 有季園(路地尊3号基)



墨田区向島5-35-15

有季園は路地尊2号基のすぐそばにあります。ワンルームマンションの建設予定地を区が買い上げ、1989年(平成元)に防災菜園として設置したものです。4階建ての隣の家から集めた雨を地下の雨水タンク(9トン)に溜めて、野菜などの栽培に利用されています。緑地の少ない都内で潤いを与える貴重な場所です。

## 7 隅田公園少年野球場



墨田区向島5-6-13  
8:00～18:00(10月～3月は16:00まで)

王貞治氏は墨田区に生まれ、中学時代は卓球部や陸上部で活躍し、特に陸上部では砲丸投げの選手として都大会にも出場するほどでした。さらに2年生の時、それまで休部だった野球部を再開させ、3年生の時には区大会で優勝、都大会へも出場しました。高校時代には全国優勝を遂げ、またプロ野球でも活躍した王選手は、戦災で多大な被害を受けた墨田区にとって、希望の星であったといえます。現在、本所中学校には、自筆「気力」の記念碑がたてられています。

## 8 桜橋



墨田区向島2  
撮影:山田和伸さん

墨田区と台東区の共同事業として、1985年(昭和60)に完成した隅田川唯一の歩行者専用橋。兩岸の隅田公園を結ぶ園路の役割を果たします。周囲の景観と調和するように配慮され、河川の橋としてはめずらしいX状の外観を持ちます。カミソリ提防のころは水辺に降りられませんでした。親水性に配慮した整備が進み、今では入れるようになりました。

## 9 三田神社



墨田区向島2-5-17

文和年間(1352～1356年)近江国三井寺の僧が巡礼中に当地で荒れた祠を見つけ、修復しようとしたところ、地中から壺に収められた白狐にまたがる神像を得ました。すると何処からともなく白狐が現れ、この神像の回りを三度回って消えたという故事に由来します。俳人室井其角「雨乞いの句碑」は有名で、1693年(元禄6)の江戸のかんぱつの際には、俳人室井其角が句を詠み奉納すると翌日大雨が降り、人々を救ったと伝えられます。

## 10 牛嶋神社



墨田区向島1-4-5

貞観年間(859～879年)頃、慈覚大師が草庵で素盞之雄命【すさのおのみこと】の権現である老翁に会い、牛御前と呼ぶようになったと伝えられ、かつては隅田公園に北側にあったのが公園の工事のため1932年(昭和7)に現在の場所に移りました。本所の総鎮守として知られ、9月15日には例大祭が催されています。境内の「撫牛」は自分の悪い部分と牛の同じ部分を撫でると病が治るという信仰で、肉体だけでなく心も治るといふ身回癒の祈願物として有名。他にも本殿前には全国的に珍しい三輪鳥居(三つ鳥居)と「狛牛」があります。

## 11 隅田公園



墨田区向島1、2、5  
撮影:山田和伸さん

隅田川沿いにある公園で、墨田区側の左岸は向島1、2、5丁目の面積約8万平方メートルの広さを誇ります。春には屈指の桜の名所となります。公園内の庭園は水戸徳川邸内の池等、遺構を利用して造られています。関東大震災後で屋敷が全壊するまで代々ここに住んでいたと伝えられますが、その後隅田公園の区域に取り込まれ、日本庭園へ姿を変えました。春には1kmにおよぶ桜並木が見事な屈指の桜の名所となり、夏には隅田川花火大会が行われます。1931年(昭和6)に開園。

## 12 勝海舟像



墨田区吾妻橋1-23-20  
墨田区役所前うい広場緑地内

墨田区役所の脇に、右手を前に突き出した海舟の像があります。日展作家木内禮智の手になる銅像で、像高2.5m、台座も入れると5.5mにもなります。この海舟は壮年期、新しい日本を思い描き、アメリカを目指そうとする瞬間を捉えたものです。平成15年に建立されました。区役所1階アトリウムには、禮智の作品や勝海舟コーナーもあります。